

# Y 2008 No.39



これは世につたえておきたい  
かたっておきたい  
わが胸の底から真実のおもい  
人生幾山河のめぐりあい  
あの日の風やひかり そして空のひとひら  
哀歓のかがり火に生きた幾年月の路  
「自分史図書館」は その証言館です。



青天井 松永伍一

桜の枝に  
ぶらりとさがった大根よ

陽のおちぎわの 赤らんだ肌の

むこうの青天井

ぼくは肩幅にぎっしり藁を背負って

じっと見る

立ちどまる 子らのあげる風

笑い声が糸をつたつてのぼってゆく

ぶらりとさがった一列の罪びとたちの

うしろから

〈1954詩集“青天井”〉

### 詩人松永伍一を偲ぶ

3月4日新聞の訃報よりも一足早く同級の松尾文郎さんより松永伍一死去の電話を受けた。夫人を失ない大変だろうとは思いやってはいたが突然の報にはびっくりした。彼の著に「幻を買った少年たち」というエッセーがあって、旧制八女中学から作家、詩人がいかに多く輩出しているかを紹介しているが、彼は私よりも一級後輩で、このクラスは実に芸術家として名をなした者、詩人川崎洋、画家小田和典、樋口善造などと多彩である。

私は彼とのつきあいは少なからず思いうかぶことは多い。三潞の平野、農の生いたちを原点に、農民賛歌を明暗こもごもに描きつづけた詩人で、若い年代の頃には剛直な硬質の文体で練りあげていたが、60歳を過ぎた齡のころになると、ずいぶんとおだやかになり、親しみやすい文体に変化した。1993年刊行の随筆集「花明りの路」などはことに温和な文章の読み物となった。

(椎窓猛)

### 受贈図書紹介 27

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。  
あしからずご了承下さい。

ちぎれ雲	岸田 典子	H19. 2
或る敗因	石田 京	H19. 2
信じて待って寄りそって	高橋 茂雄	H19. 2
生きて帰れまいこの命	矢沢 新五	H19. 3
少年期	坂井 偉雄	H19. 3
久留米緋と私	広川町商工会	H19. 1
一下士官のビルマ戦記	三浦 徳平	S56. 4

ビルマ敗退戦	興野 義一	S56. 10
ビルマ進攻作戦	陸戦史研究会	S43. 7
雲南・ビルマ戦記	外田 栄吉	H 1. 9
累骨の谷	橋本 武義	S54. 2
戦い敗れて	堀内 龍三	S55. 6
第二次派遣団収骨報告		S52. 6
ビルマ収骨記録		S52. 9
絵本南戦録	渡辺勝三郎	S53. 8
風の白書	山村 正明	松戸市
花のうた	貞刈みどり	太宰府市



○歌集 日々のかたち

内藤 賢司

○「あとがき」からの引用（部分）

- 歌集『日々のかたち』は、私の第三番目の歌集である。

第一歌集『春風のように』は私の三十歳代までの、第二歌集『雲を見る』は私の四十歳代の、そのときどきの生のかたちをまとめたものであった。この歌集もまた、私の五十歳代のそのときどきの生のかたちをまとめたものである。412首収めた。

● 歌集名を『日々のかたち』とした。自分の生の物語は自分で作っていききたい。一回きりの自分の生をくきやかなものにしていききたい—そういう思いで、私は、日々の生活の中で生のかたどりをしてきたように思う。日々の生活の中での生のかたどり……、『日々のかたち』とする所以である。

● 歌集を上梓して

大学の卒論で、私は石川啄木を取り上げました。その啄木に「一利己主義者と友人との対話」というエッセイがあります。啄木はそこに次のように書き付けています。「一生に二度と帰ってこないのちの一秒だ。おれはその一秒がいとしい。たゞ逃がしてやりたくない。それを現すには、形が小さくて、手間暇のいらぬ歌が一番便利なのだ。……おれはいのちを愛するから歌を作る。……。」

私はこの部分がとても気に入っています。私がこの歌集のタイトルを『日々のかたち』と名付けるときも、啄木のこの言葉が心の中に響いていたのかもしれない。私もまた、日々の私の生を大切にしたいと願っています。私自身の生のかたちを刻んでいきたいと思っています。それには、短歌形式が最もいいのです。短歌とは、日々のいのちを象ってくれる器なのです。

今度の歌集には、父の死、そして父のその前後のことを「挽歌」として100首近く収めています。父の死は、私の五十歳代における最も大きな出来事でした。父とは何か、父の像を求めていく課題を私に与えてくれました。

これから更に自在なそしておもしろい歌を作っていけたらいいな、と思っております。よろしかったら、ご一読ください。（京都・青磁社刊）

- ・ 雲がゆく 川が流れる 蝶が飛ぶ 石切り場にわたしを許す
- ・ アキアカネ飛び交う白き農道はまっすぐにして父の逝く道
- ・ 裏山は父のいる山ひっそりと時おり訪うてわがゆくところ
- ・ 山の子はバツタのようだ飛び跳ねて道いっばいに登校をする
- ・ 身の丈のやや長ぎゆえ下半身つぶされてへビは道に横たう
- ・ 「お父さん」という言葉よし娘に呼ばれ振り返り見る空港口ビ―
- ・ 退職をするかと問えば湯の中のペニスにつこりうなずき返す

『日々のかたち』 自薦七首



編集掌記

▼「Ya」No 36  
・ 12月発行の  
たよりに紹介  
した「幕末最  
強の剣士“突  
きの進”」の

著者松見正宣さんと思いがけなくお会いした。その場所は広川町・ローム・アポロ会議室。矢部川流域振興提唱会でのことであった。NHK広報部長等歴任のお方とは、著書で判っていたが、東大阪市長もお勤めであったという政治家とは、——そして現在は大阪経済法科大学客員教授。なるほど提唱会で述べられる地域振興に対するご意見は鋭い卓見である。傾聴させられた。いちどこうした行政体験を基に筑後一帯の文化振興の方策についてのご意見も伺えたらと思った。▼八女市の伝統工芸館にときおり参観

するが、ここへ足を踏み入れるたびに八女一帯の文化、物産の豊かさといったものを感受させられる。ここへ創作者のプロフィールなども掲示されたならば、手づくりの意義、関心がさらに深まるのではないかと参観のたびに思う。

（自分史図書館長 椎登猛）

自分史図書館

入館無料  
開館 午前9時～午後5時  
閲覧希望の方は予め電話でご確認下さい。  
貸し出しはしていません。



〒833-0032 筑後市野町423-8 TEL・FAX 0942-53-8122  
西鉄バス野町停留所より徒歩5分  
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan